

令和3年度 第1回山武市総合教育会議 会議録

日時 令和4年3月10日(木) 午後2時00分
場所 成東文化会館のぎくプラザ視聴覚室
議題 (1) 令和3年度山武市教育委員会の取組について
ア コロナ禍における対応について
イ GIGAスクール構想への取組について
ウ 学校支援センターについて
(2) その他

出席者 ◎市長 松下 浩明

◎教育委員会

教育長 嘉瀬 尚男

教育長職務代理者 清水 新次

委員 今関 百合

委員 木島 弘喜

委員 渡邊 礼子

委員 北田 昭雄

○関係職員

副市長 上大川 順

総合政策部長 荒木 康之

総務部長 石橋 和記

教育部長 小川 宏治

保健福祉部長 小川 雅弘

企画政策課長 内山 晴夫

財政課長 秋葉 一徳

健康支援課長 浅野 たき江

教育総務課長 川島 美雄

学校教育課長 高野 隆博

学校教育課指導室長 中村 之彦

・事務局

教育総務課副主幹 鵜澤 秀己

教育総務課総務企画係主査補 鈴木 秀一

◎開 会

教育部長

ただいまから、令和3年度第1回山武市総合教育会議を開会いたします。皆様には大変お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。初めに、松下市長より、御挨拶をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

市長

皆様、こんにちは。今日は、令和3年度の第1回山武市総合教育会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

3月に入り、季節も移り、学校関係者にとっては、毎年のことですが、この時期いろいろ、気持ち的にも大変な時期かと察するところでございます。

本日は中学校の卒業式もございましたが、本来であれば、我々も出席して卒業生を送り出したいと思いましたが、コロナ禍ということで、なかなかそういうこともできなかったのも、非常に残念に思っております。

また、令和3年度も前年度に続きまして、コロナ禍の中で学校教育等、本当に皆様方にいろいろアドバイスいただきながら、山武市として進んでいることで、本当に感謝、御礼を申し上げます。

今日は、本当に大事な会議でありますので、皆様方の意見を聞きながら、しっかりと私も方向を定めながら対応してまいりたいと思っております。胸襟を開きながら、皆様方とお話ししていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

教育部長

ありがとうございました。
続きまして、嘉瀬教育長、お願いいたします。

教育長

本日は、議会の開会中でもあり、年度末のお忙しい中で、総合教育会議を開催していただきまして、誠にありがとうございます。

今、市長からもありましたが、今年度も新型コロナウイルス感染防止のために、新しい生活様式で非常に制限の多い年となりました。その中で、学校行事のほか、社会教育事業、それから体育事業、多くが縮小、中止となってしまいました。それから、また先月は、教育委員会庁舎内でも、クラスターとなる大勢の感染者を出しましたことで、皆さんには大変御心配をおかけしてしまいまして、誠に申し訳ございませんでした。また、その際には多くの皆さんの御協力をいただきましたことに、改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

このような年ではありましたが、本日は、山武市教育委員会として、新た

に取り組んできた主な事業について御報告をさせていただき、必要な御意見をいただければと思っています。

また、学校の規模適正化、適正配置、基本計画による統廃合につきましても、コロナ禍ではありましたが、ほぼ計画的な事業遂行ができて、予定どおり、準備も進んで、来年度には、松尾中学校と蓮沼中学校が統合する新しい中学校として、山武望洋中学校が開校できることになりました。ありがとうございます。

本日は、これらのことについて御報告をさせていただき、今後の教育委員会活動についても意見交換ができればと思っています。限られた時間の中ではございますが、お互いの意見を出し合いながら、共通理解を図れるようにしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

教育部長

ありがとうございました。

それでは、これより議事に入ります。

なお、議長につきましては、山武市総合教育会議設置要綱第4条第1項、「会議は、市長が招集し、会議の議長となる。」とありますので、市長に議長になっていただき、議事の進行をお願いしたいと思います。

それでは、市長、よろしくお願い致します。

◎議 事

(1) 令和3年度山武市教育委員会の取組について

ア コロナ禍における対応について

イ GIGAスクール構想への取組について

ウ 学校支援センターについて

市長

それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきますので、よろしくお願い致します。

なお、今回の議事は、令和3年度山武市教育委員会の取組についてといたしまして、次第にあります、ア、イ、ウ、3つの案件を予定しております。これら3つを最初に事務局から説明をしていただき、その後に委員の皆さんから御意見を頂戴したいと思います。

それでは、1つ目の令和3年度山武市教育委員会の取組について、アのコロナ禍における対応について、事務局から説明をお願いいたします。

指導室長。

指導室長

子ども教育課指導室の中村です。それでは、私から、3つの案件につきまして、御説明をさせていただきます。

初めに、コロナ禍における対応について、御説明いたします。今月、7日までのコロナの感染状況等については、資料に記載させていただいたとおりでございます。陽性者は、市内16校全ての学校において確認されました。クラスターが発生した学校は、今までございません。兄弟等による感染など、家族内の感染から拡大していくケースが今まで多かったです。

第6波による感染拡大によって陽性者が急増したため、学校において、陽性者が発生した場合の対応、例えば、陽性の判明前の行動履歴の確認、濃厚接触者に該当する児童生徒の掌握、これ以上、感染を拡大させない対策、外部機関との連携等、保健所の業務及び感染拡大防止に向けた対応等を学校と協力し、資料で示しましたように、子ども教育課指導室が行っております。

なお、行政のPCR検査、第1回目から第3回目の教職員のワクチン接種の実施等、保健福祉部と連携を密にしながら、現在においても、感染の拡大防止に努めております。

次に、GIGAスクール構想への取組について御説明いたします。GIGAスクール構想により、1人1台端末と高速大容量のネットワーク環境が整備され、タブレットを教材、教具や学習ツールの1つとして、手元に置いて必要に応じて活用しながら学習を進めております。

教育委員会では、日向小学校をICT教育推進校に今年度指定し、授業でのICT機器の活用について実践を進めており、各学校の情報教育担当者で構成されている情報化推進委員会で、推進校の実践や自校の課題について、情報共有を行っております。授業では、情報を検索し、収集、整理する検索サイトを活用した学習やデジタル教材を提示し、学習のイメージを持たせたり、児童生徒の反応を確認したい場面での活用、また、一人一人の学習状況に応じた個別学習として、eライブラリー等の学習ドリルを活用しております。

教員への支援につきましては、プログラミング学習用ソフトをはじめ、児童生徒が簡単に作業できる共同学習支援ソフト、スカイメニューを導入し、教員向けの操作研修を全ての学校において実施いたしました。また、教員がICT機器を有効に活用するために、タブレットを用いた授業で、ICT支援員を教員のサポートとして配置、外部機関にヘルプデスクを委託し、校内で対応できないICTの操作方法への質問や不具合への対応について、サポート等を受けられる体制を整え、対応しております。

タブレットの持ち帰りにつきましては、緊急時、学級閉鎖や学年閉鎖の対応が必要となった際に許可し、Wi-Fi環境のない家庭に対しても、モバイルWi-Fiルーターの貸出しを行っております。3学期、コロナの感染

拡大の影響により、臨時休業や学年、学級閉鎖等の措置を取った学校では、実際、タブレットを家庭に持ち帰り、双方向でのオンライン授業やeライブラリーを活用したドリル学習等により、学習の保障を行っております。

また、学校を休みがちな児童生徒や、新型コロナウイルス陽性者や濃厚接触者で一定期間、登校することができない児童生徒に対しても、タブレットを家庭に持ち帰り、状況に応じてオンラインでの授業に参加しています。今年度は試行錯誤しながらの取組でしたが、次年度は、端末活用の推進をさらに図っていくため、授業において、より効果的な活用をはじめ、平常時においてもタブレットを持ち帰り、家庭での活用、ITリテラシーの向上等の取組を充実させていきます。

最後に、学校支援センターについて御説明いたします。学校が抱える諸課題の解決に向けた取組を支援し、充実させるために、教育委員会内に学校支援センターを設置したものでございます。今年度は、業務を委託しているNPO法人教育サポートGAAの職員と指導室の職員が連携を図りながら、進めております。

学校支援センターの具体的な業務内容ですが、児童生徒の学力向上に関する対応では、児童生徒が、どこの単位、学習でつまずいたかを調査、確認し、学習の学び直しや学習の仕方、また、教員の学習指導力の向上に向けた支援を行っています。不登校、長欠児童生徒に関する支援では、休みがち、家庭に協力が難しい等、何らかの問題を抱えている特別な支援が必要な児童生徒への対応を、学校と連携し、行っております。

今後につきましては、不登校、長欠児童生徒を増やさない取組について、具体的には、欠席日数が30日を超えていない児童生徒に対しても、欠席理由等を調査し、支援の仕方を明確にしていくことで長欠対策を図っていければと考えています。地域人材を活用した学校支援では、例えば、外国人児童生徒への対応について、市内の学校は、外国籍の子どもの在籍が年々増えており、英語を通じて、子どもたちに対しての支援ができる人材を活用し、子どもたちが学校生活へスムーズに入っていけるように支援を行っております。

タブレットを活用した授業実践等では、コンピューター分野に優れた人材を活用し、学校に対して支援を行っております。また、草木の剪定等の環境整備についても、地域人材を活用することで、教職員の時間確保に大変役立っております。これからも学校が抱える諸課題の解決に向けた取組を支援していくことができるように、GAAと連携しながら、学校支援センターを学校のために運用していきます。

以上で、3点についての説明を終わります。よろしく申し上げます。

市長

ただいま、中村指導室長から3つの案件の説明を続けてしていただきました。

説明が終わりましたので、委員の皆様方から御意見、御感想をお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

清水委員、お願いします。

清水委員

私からは、まず、コロナ対応でありますけれども、コロナの影響というのは、子どもたちに非常に大きな影響を与えています。コロナ禍で、オンライン授業も実施されてきておりますけれども、特にオンライン授業につきましては、いろいろな機器の整備であるとか、そういったものが必要になってまいります。そういう意味で、今までも十分配慮していただいておりますけれども、特に予算面で、市長の格別の御配慮をいただければと思っております。

GIGAスクール関係では、これも市長の格別の配慮を、恐らくほかの市に比べても、かなり進んだ取組はなされていると私は誇りに思っております。ただ、問題は、これから機器の更新等がありまして、当初は国の厚い補助もありましたけれども、これから機器の更新では補助がなくなるのではないかと思います。市長のおかげで、これだけ先にスタートしておりますので、遅れるわけにはいかないと思いますので引き続き、予算面での支援をお願いしたいと思います。

それから、さらに支援員の問題は非常に大きな要素になってまいります。学校では、新しい機器の使い方に必ずしも先生方は慣れていないという部分がありまして、支援員を充実して、教える側の充実を図っていくためには支援員が必要だということになってまいりますので、これも予算ということで、よろしくお願ひしたいと思うわけであります。

それから、最後の学校支援センターの関係です。これは千葉県でも、恐らく山武市が初めてと言っているぐらいの取組ではないかと思っております。ですから、そういう意味で、私は誇りに思っておりますし、市長も大いにほかのところに向かって、うちはこういうことをやっているぞと誇っていただいて結構だと思います。

そういう意味では、学校、学力向上の土台ができたのではないかと思います。課題は、中身をいかに充実していくか、いかに機能させるかということでありまして、優秀な職員の確保、こういったことが課題で、これは私どもの課題だと思います。そういう意味では、これをしっかりやっていくために、これを土台にして学力向上をさらに伸ばすためには、しっかりした部分が必要だろうと思いますので、引き続き、市長のしっかりとした応援とPRをお願いしたいと思います。

学力向上ということは、常々思っておりますが、残念ながら、現在の状況

というのは、昔の合併前の調査を引きずっておりまして、県下の中で見て、全県平均を少し下回っているということです。ですから、これを最低、全県並みに上げるということは喫緊の課題で、県レベルの学力テストでは、かなりいい線に行っておりますが、国レベルのテストでいきますと、県平均よりもかなり落ちてしまうというのがありますので、その部分も含めて、これから教育委員会としても努力してまいりたいと思っています。

これは市の魅力という点からいっても、あの学校に行けば学力が上がるというのと、あの学校に行けば学力が落ちるよというのでは、これは全然違うわけです。だから、そういうことがあってはならないと私は思っておりますし、今、嘉瀬教育長を中心に非常に努力してくれているので頼もしいなと思っております。そういう意味で、この部分について、市長にしっかりPRしていただきたい、また、応援もしていただきたいと思っております。

以上です。

市長

ありがとうございます。幾つか、今御質問、御意見等いただきました。

まず、コロナ対応でございまして、これはオンラインで授業を行ってきたということでもあります。これは教育委員会としても、今までもICT教育を進めていた中で、現在のコロナ禍という環境になってしまいました。しかし、全部的には賄うまでは、至っておりませんでした。それを少し他地域より一歩前に出ていたということがあり、進めやすい環境であったのかと思っております。これは、コロナ感染の機を教訓とし、これを将来、同じようなことがまたあってはならないので、しっかりとそういうところは進めていっていただこうと私も思っております。

次にGIGAスクールの予算については、今、総務部長がおりますので、後で、その辺も総務部長にお願いをしたいと思います。

続いて支援員の充実ということで、これはICT教育を進めていく中で、支援員の皆様方の役割というのは非常に大きいことであって、スムーズにいくことが教育の充実につながっていくと捉えておりますので、今後とも、その辺は、支援員を集めるのも頑張っってやっていかなければならないと思っております。

学校支援センターについてです。これは本当に私も見て素晴らしい取組が始まったと思っております。まず、一番最初の子どもの学力向上に関するということで、今、清水委員からおっしゃっていただきましたけども、なかなか平均が、全国ではレベルまで行っていないというところ、これは議会の中でも話はされますので、市としても重要な案件であると捉えております。

そしてまた、不登校、長欠児童、こういう方々は、これによって人生が左右されることもあります。この対応というのは非常に大事であろうと思っ

おりますので、これも入れていただきありがたいことだと思います。

そして今、外国人の方が増えてきて、それに伴い外国の子どもたちも当然増えてきています。ですので、これの対応というのは、これからもまだきつと増えるであろうし、市とすると取り組んでいかななくてはならない問題がありますので、そういう意味で、学校支援センターの役割というのは非常に大事であると思っています。千葉県でも、あまりこういうのはないと、先ほど清水委員からもお話しありましたが、できればしっかりとやっていって、山武市モデルか何かで、県全体でもやっていただけるような形になればと思います。

私は、教育委員会では全体的にすばらしい取組をしていると捉えておりますので、予算も限りはありますけども、その中で工夫しながら、確保していくように努力させていただきたいと思います。

それでは、GIGAスクールのことを総務部長からお願いいたします。

総務部長

GIGAスクールの機械につきまして、御説明させていただきます。今回は全国一律で機械を入れていっていますので、日本全国で5年後には、また入替えのタイミングが来ると思います。その段階で国が面倒を見てくれればいいのですが、そこはなかなか確約できることもございませんので、それにつきましては、あらかじめ準備しておく必要があると、財政当局では認識しております。

今年度、地方交付税が大きく見直しされる年でした。私たちはもっと厳しく減少するという認識をしておりましたが、若干上振れしています。それに加えて、コロナの関係で、いろいろな事業が結構縮小されておまして、若干予算も余裕があるところでもありますので、本定例会におきまして、教育施設整備基金という基金がございますので、そちらに5億円ほど積立てをさせていただきます。これは5年後に備えて積立てをさせていただきます。

まだ、それ以外にも校務システムの入替え等もございますので、まだ5億円では足りない私たちは認識しております。機会を見ながら、5年後を見据えて、引き続き積立てをしながら、次の機械の更新に備えたいと考えております。

以上でございます。

市長

ありがとうございます。

では、ほかにもありましたら、お願いいたします。

今関委員、お願いします。

今関委員

私は特に、ウの学校支援センターの取組についてすけれども、児童生徒の学力向上のために、今も公民館などを使って、GAAの方に御協力をいただき、英検のほかにも算数検定と漢字検定の指導をしていただいています。それについては、今のところ、子どもたちは自費です。英検は年に1回、公費で対応いただいておりますが、そういう取組については、自費で全部受けておりますけれども、子どもたちの得意なことというのは人それぞれで、英語が必要なのはもちろんですが、ほかの力も伸ばしてあげられたらいいと思うので、一人一人の持っている力を伸ばすために、ほかの検定も少しずつでもいいので支援をしていきたいと思っているので、応援していただけるとありがたいと思いました。

以上です。

市長

御意見いただきました。留めておきます。

今関委員

お願いします。

市長

ほかにありますか。木島委員。

木島委員

教育委員の木島です。清水委員が先ほどおっしゃっていただきましたけれども、私もこれは非常に重要な問題で、今、コロナが全世界的に問題になっておまして、子どもたちの教育、ゼロコロナというのはもう不可能だと思います。どうしてもこれからはコロナと付き合っていくといけないという時代を迎えたと感じておりますので、そういった中での社会教育環境の変化に合わせるためにも、いわゆるオンライン授業というのは、これからもっともっとレベルを高く、充実させていくことが急務だと思っております。

そういった中で、山武市というのは、ICT教育の先進県、いわゆる千葉県の中でもトップのほうを走っている自治体だと思うので、その辺のところを大きく誇りの1つとしまして、オンライン授業の充実、レベルアップ、それで、「千葉県に山武市の教育あり」と、いわゆる日本にとどまらずに世界的なところまでも視野を広げて、その辺のところを学校支援センターでも研究していただき、こういったものを山武市でも取り上げて、生かしていけるのではないかとこのところを、教育委員会としてもこれからはどんどん考えていかなければいけないと考えているところです。

そういった中で、松下市長にも、山武市は一步先を見据えた先駆的な教育環境の整備充実を図る、これが将来的には市の発展にも当然つながっていくということを理解していただきました上で、特段の財政的な配慮や最優先事項として、そういったオンライン授業の充実は、山武市の大きな課題の1つ、

これをもっともっと伸ばしていくというのを、ぜひ嘉瀬教育長と協力していただきまして、どんどん進めていただければと期待しているところです。

それと、もう1点、どうしてもこれはお聞きしておきたかったんですけど、教育委員としての立場から離れてしまうのかと思ったんですけど、コロナ禍という1つのテーマの中で、大きく捉えまして、今5歳から11歳のワクチン接種が始まったというところで、いろいろ今、日本全国の首長、泉大津市の首長とかは特に5歳から11歳の子どもたちにワクチンをどうか、もう少し慎重に考えてみましょうという立ち位置、ポジションを取っておられるようです。そういった中で、山武市としては市長のお考え、あるいは、山武市行政として、5歳から11歳の子どもたちのワクチンに対して、どういった対応を考えているのか。今、実際もう対応に入っていると思いますけれども、そういったところの現状、その辺のところを、もし差し障りのない範囲で御回答をお聞かせいただければと思います。

私からは以上です。

市長

ありがとうございます。木島委員から2点のことで、御意見、御質問を承りました。ありがとうございます。

まず、5歳から11歳の子どもたちのワクチンということです。私としても、また、補足説明を担当がいますので、担当からもしてもらいますけど、その前に私からさせていただきます。

順番が質問と逆になりますが、ワクチンのほうからお話いたします。5歳から11歳のお子様へのワクチン接種が可能となったということで、これは、このワクチン接種は強制ではないということがありますので、任意でやっていただきます。そしてまた、今までコロナを子どもじゃありませんけども、ワクチンを接種することによって患者さんを抑制できたとは思っております。ただ、希望者については、政府も進めておるとおり、接種をしていただく準備を今進めているというところでございます。その辺は、また担当からもお話をいただけたと思います。

そして、人口減少対策に、今、木島委員から1つ目の市のPRに学校支援センターやICTの取組をということでありますけれども、これは確かにそのとおりですが、山武市もなかなか人口減少が止まらないのが事実です。市の各部の政策では本当に全てを人口減少対策につなげていこうということで、みんな意識を持って、行っているところです。とは言いながらも、減っているのは減っているということでありまして、これを少しでも増やしていかなければならないと捉えております。

そういう中で、市とすると、人が増えるためのPRの1つの武器として、教育環境の充実、これはしっかりと進めていかなければならない。今まで、

ここでICT教育とか英語検定もそうですが、本当によくやってくれているところを、私とするとPRの1つとして、自分で持っていて、お話しするときにさせていただいておりましたけれども、これも、今度はもう一つ、今、思った武器ができたかなというのは、学校支援センターが、こういうことがあるんだなというのは、また私の武器と思っておりますので、PRに努めさせていただきたいと思っておりますので、また、そういうお話があったらいただきたいと思っております。

私からは以上です。もしお話しできれば、お願いいたします。

健康支援課長

健康支援課の浅野でございます。よろしくお願ひいたします。

今、お子さんの5歳から11歳のコロナワクチンについてのお話をいただきましたけれども、山武市では、現在、保護者の方、対象者の方全てに希望調査を行っております。ちょうど本日が締切りという形では出ておりますが、今、戻ってきている中では、7割近くの方が希望されているというところでございます。

市内3か所の医療機関で、早いところは4月2日から接種を始める予定で、希望される方には接種の予約表と予診票、日にちを指定したものを順次、来週からお送りする予定で進めております。

ドクターの中には、ワクチン接種について、全国的には様々な御意見があるようですが、山武市としては、市医師会の会長と山武医療センターの小児科の先生や、市内の先生方と相談した中では、希望される方には接種できる体制を取ったほうがいだろうということで、実施を決定して進めているところでございます。

以上でございます。

市長

質問等ありますか。大丈夫ですか。

木島委員

はい。

市長

ありがとうございます。ほかにございましたら、御発言お願ひします。
渡邊委員、お願ひします。

渡邊委員

教育委員の渡邊です。よろしくお願ひします。

GIGAスクール構想ということで、市では、ICT支援員、並びにヘルプデスクの活用がされておまして、先生方、大変助かっていることと思っております。今後も、ぜひ続けてほしいところです。

具体的にオンライン授業を進めるに当たって、今回の補正予算で要求され

ておりましたが、デジタル教科書が大変私も有効だと考えています。ぜひ全学年で、全校で配付できるように、支援をよろしくお願ひしたいと思ひます。その他オンライン授業に係る費用もこれからいろいろ出てくることかと思ひますけれども、ぜひその辺の御支援をよろしくお願ひします。

もう一つ、私はNPO法人のGAAにも所属しております。具体的に日本語支援に行っておりますけれども、来年度もたくさんの方のスリランカの方が、特に睦岡小、そして、山武北小にも入ってくる予定です。そのために、支援体制が結構厳しくなつてきておまして、みんな同時期に入ってくれば指導しやすいのですが、それぞれ入ってくる時期や発達段階もばらばらということで、今、支援体制について、指導主事を中心に話し合つております。

今日も2回目の話合ひがありましたけれども、そのための教材、教具も準備していかなければいけないと思ひますので、その辺の援助もしていただきたいと思ひているところです。

以上です。

市長

ありがとうございます。渡邊委員から2点のお話をいただきました。オンラインでの教育の充実と外国人への支援ということだと思います。

先ほどもお話をいたしましたけれども、コロナ禍、コロナという感染症が2年ぐらい前から蔓延してきて、本当に社会が変わつたと私も捉えております。特に教育の中ではオンラインでの教育ということが非常に、これが普通になってくるのだろうと考えております。市としますと、それは進めてまいります。ただ、予算もありますので、それを見ながら進めていくように、今のところはなるかと思ひております。大事なことだということは承知しております。

また、外国人の、スリランカに限りませんが、確かに、これからコロナが明けていきますと、子どもたちを含めて、外国の方が日本に来て、また、山武市に来るといふお話も伺つておりますので、子どもたちに対しての教育と、外国人の山武市での教育というのは非常に大事であると思ひます。外国人の方でも将来あるお子さんたちなので、日本人と一緒に学力の向上もしてあげなければならないと思ひておりますので、まさにこれから始まつていく学校支援センターが中心となつて、また、そういうところを進めていただきたいと思ひますので、また、アドバイスいただければと思ひます。

いいでしょうか。

渡邊委員

ありがとうございました。

市長

ほかにもありましたら、北田委員、お願ひします。

北田委員

教育委員の北田です。よろしくお願いします。私からは何点か、お願いしたいと思います。

1つは、GIGAスクール構想についてですが、これは先ほど清水委員、木島委員とも関連するところなんですけれども、先ほどの説明の中で、中村指導室長の説明の中で、今年度の取組ということでオンライン授業の実施、それから、タブレットの自宅での使用ということで、それに関連して、実際に今年度、例えば学校で学級閉鎖、あるいは、コロナ禍の対応で学年閉鎖になったところがあります。

そのときに、一番保護者が心配するのは学習の保障、授業の確保、休みになった時間はどこでやってくれるんだろうかということが、まず、私は気になると思います。そのときの対応として、例えば、今まで山武市でICTの活用等を推進してきまして、その効果といいますか、成果といいますか、私も実際に、学校にオンライン授業をやったときに、たまたま私は孫のいる学校でそういう事態が起きたものですから、実際に学校に行ってみせていただきましたけれども、すごく機器を活用して、オンライン授業をスムーズに実施していたと私は思いました。

その中で、当然、私が見た学校だけではなくて、山武市内の各小中学校、何校かでやられたと思うんですが、そこでの、いわゆるオンライン授業の成果、それから、あるいは課題、そういうものは各学校で出て、今回、実施に当たって出てきたと思います。その点については、教育委員会の事務局で、取りまとめてもらって、そして、生かせるところは、ほかの学校にもどんどん生かせてもらって広めていくように、お話はしてあります。

要は、オンラインでの授業を実施するに当たってのICT機器の整備について、今までと同様に、今後ともぜひ措置をお願いしたいということが1点です。

それから、GIGAスクール構想の中の2点目として、教員への支援ということが先ほどありましたけれども、今日の発表とは別の角度で、山武市の小中学校で、今も実際に活用されております校務支援システムというものがあります。これは、いわゆる先生方の仕事、例えば一義的には授業を先生方はやるわけですが、そのほかにも、校務の中で出席簿の作成などいろいろ仕事があるわけです。そのようなことについて、いち早くICTを活用して、校務支援システムを導入して、先生方、非常に仕事が効率的になって、教職員の職務の負担軽減になっているということを現場の意見も、私も聞いております。

そういったことで、それはひいては、働き方改革につながっていくと思いますので、これは教育の世界の問題ですけれども、教職員の長時間労働です

とか、そういうことで先生の成り手が、要するに、採用試験の倍率が下がっております。文科省の令和3年度の調査で、小学校では2.7倍だそうです。1979年以降、過去最低ということで、競争率がそれぞれ3倍を切ると、教員の質の維持というのは一般に難しいと言われていまして、何とか我々も教職員の、私もずっと教員をやっていたものですから感じるんですけど、教職員の魅力、教員の魅力というのを発信しながら、また一方で、そういった教職員の軽減負担になるような財政的支援も引き続き、お願いをしていきたいということです。

それから、3点目ですけれども、これは学力向上に関連することですが、先ほどからも話題になって出てきていますが、英語検定の取組について。これは、また中村指導室長から報告、この後、あると思いますけれども、今年度、その成果が出たと、32.8%から46.4%、3年生の英語検定3級の取得状況が非常に上がったということで、なぜ上がったかと理由を考えてみたのですが、1つは、山武市の教育振興基本計画の中にそれをきちんと位置づけて推進しているということ。それから、もう一つは学校の、あるいは生徒の頑張り、取組、これが2つ目として挙げられるかと思います。

そして、3つ目は、一番大事な市の財政的支援といえますか、これが非常に大きいかと。来年度、令和4年度の事業でも、いわゆる英語検定の受験料の補助ということで、382万8,000円が予算計上をされているということで、検定を受験するに当たって、市のほうが補助してくれる。これだけの予算措置をしているのは恐らく、県内ではあまりないのではないかと。学校現場の意見を聞いても、非常に学習意欲の向上につながっていると、子どもたちのモチベーションが上がっているという声が寄せられております。保護者にとってもすごくありがたいことで、また、我々、教育委員会サイドとしても、50%という目標があるのですけども、それに向けて頑張らせますので、ぜひ今後とも継続して、財政支援のほうを強くお願いしたいと思います。

それと、最後、もう1点、2月に教育委員会でクラスターが発生したということがありました。その際には、市長部局から応援をいただいて、職務の遂行に支障がないようにということで協力を得たという話も聞いております。

ただ、御承知のように教育委員会、私が見たときに、素人が見ても、構造上の問題で、以前は法務局であそこを使用しておりました。天井が低いとか、そういう構造上の問題もありまして、なかなかその中で、対策を図っていくのは難しい面もあるのではないかとということも感じました。そういう点で、なかなか難しいと思いますけれども、庁舎の整備についてできることは何かあるかなということで、質問をさせていただきます。

長くなりました。以上です。

市長

ありがとうございます。4点、北田委員から御質問を受けました。

GIGAスクールの関係でオンライン授業を実施するにあたり、今後も機器の整備を進めていただきたいということでございます。これは、先ほどお話をさせていただきましたが、大事なことだと思っています。今後も考えていきますので、また御指導をお願いします。

次に教員への支援ということございまして、ICT教育の中で、このことに取り組んでいくと、確かに、まず、そこもそうなんです。教員の指導の軽減にも伝わっていくし、子どもたちの学習効果も表れてくると捉えております。教員の負担の軽減というのは大事なところだと思っておりますので、それは、校務支援システムなどを使いながら、時代がそういう時代になっていきますから、進めていくべきであると思っております。

続いて、英語検定等です。学力向上、山武市の計画に位置づけておりまして、生徒たちも頑張ってくれていると、あとは、市の財政支援も本当にこれは、できる限り頑張らせてやらせていただいているということも委員からも評価をいただきありがたく思っております。しっかり取り組んでまいります。

最後に、コロナの件ですが、確かに教育委員会でクラスターが発生してまいりました。今、委員が言われたようなことも、原因の1つかと思いましたが。また、今現在は、一人一人、皆さんが注意して進めていくしかありませんけれども、そういうことがあったということも現実でございますので、そういうことも受け止めながら、何かまた考えていきたいと思っております。

北田委員

ありがとうございます。

市長

ほかにも何かございますか。よろしいでしょうか。

それでは、ここで、教育長のから御意見いただいているいいですか。お願いいたします。

教育長

今、各委員から、今回のテーマも含めて、様々な御意見をいただきました。GIGAスクール構想についても学校支援センターについても、今いろいろと形になってきたことが、さらに充実させていってほしいということだと思います。

市長も先ほどおっしゃってましたように、人口減少対策の1つとして教育というものがあるということですが、どの市町を見ても、教育の充実というのは、ほとんど全てのところがうたっている項目です。そんな中で、山武市が、どこもが充実させようとしている教育施策の中で、山武市ではどこがどのように他市町より優れているのか、こんな点があるとPRできる部分が必要になってくると思います。特に人口増を目指す中でも、子育て世代、若

い世代を呼び込むというのはすごく大事なことだと思いますし、そういった意味でも教育をしっかりとしたものにしていくというのは、もう欠かせないことだと我々も思っています。

そんな中で、山武市教育には、子育て世帯を呼び込むために何かPRできることがあるのか、そういうことをやっているかと教育委員会で問われたときに、先ほど来、出ていますICTの件もそうですし、NPOを活用した学校支援センター、こういった取組というのは、恐らくほかではあまりやっていないものです。差別化できる特徴的なことだと思っています。

ICTについても先ほど委員からお話がありましたが、先進的に取り組んできて、様々な課題を1つずつ解決しながら、例えば校務支援システムについても、最初のパッケージはなかなか現場にうまく合わなかったものを、しっかりと先生方の活用できるように改修してきて今がある。山武郡市内で言えば、学校へ行くのであれば山武市がいいという教員がどんどん増えてきてくれている。校務支援システムというか、ICTを入れた当初は、山武市に行くコンピューターをやらなければならないから、大変だから行きたくないと言っていたのが、今は逆に山武市に行きたいという先生がどんどん増えてきている。それは、先ほども出たように先生方の働き方改革とか環境をよりよくしているからであり、そのことがしっかりと子どもの教育に反映されると思うのです。先生方に余裕ができて、時間ができたことが子どもに向かい合う時間ができる。そのことで、少しでもいい教育に結びつけられるということにもなってきていますし、これも時間をかけてやってきていることです。

今回、GIGAスクールでパソコンとかWi-Fiを入れたから、すぐにオンライン授業ができたとかそういうことではなくて、長い間、研究を積んできて改修してきたからこそ、改正の重要性も分かっているし、そういったことでそれが実現できた。恐らく他の市町と比べてもらっても、パソコンはみんな入れたけど、全部の学校できちんと同じ授業ができる体制をつくれているというのは、話を聞く限りではほかにはないと思います。

それから、また学校支援センター、これも教育支援センターという形で持っている自治体は結構あります。でも、そんな中で、山武市教育委員会として、先ほど来、少し出ています、NPO法人GAA、これは地域の人たち、今は主に教員を退職されて、でも、まだ子どもたちの指導についての熱い思い、熱意を持っている方たちがこのNPOに参加していただいて、様々な学校を支援していただいている。こういう形の地域にいる人たちのスキルを活用し、活力を生んで、子どもたちに伝わるような形、そういった仕組みの中で学校支援ができるということというのは、恐らくほかにはありません。

そういったことが、これもNPOが立ち上がったのは、もう既に六、七年

前になると思います。それが、学校の中に入っていった、ちゃんとした支援組織として認められて、それが実際に効果を生むようになってきました。これも本当に時間をかけてやってきたもので、それが今、形になってきて、目に見えるものになってきているので、ぜひ市長のほうでも、そういったことをしっかりと内容を知っていただければ、胸を張って山武市教育はこんなことをやっていると言える材料になるはずですよ。市長がそういうことをきちっと発信してくれば、山武市教育というものに対する周りの見方、意見も変わります。現実的に、現場ではそういう効果がどんどん出てきているということなので、確かに予算も多くつけていただきながら取り組んでいることですが、将来を担う子どもたちのために、確実に成果を生み始めているということで、今後も一層の御支援をしていただきたいと思いますところですよ。なかなかこういうお願いする場がないので、今日言わせてもらいましたが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

市長

ありがとうございます。

それでは、私からもお話しさせていただきます。山武市は、私も市長になって、まず、人口減少対策をしなければならぬという中で、どれ1つとってもみんな大事な政策です。その中で言えることは、教育のことについては、非常に私も教育長からも、自慢できるものだということでお話をいただいておりますので、そのとおりで思いながら、進めております。

先ほど、総務部長からも話をいたしましたけども、また更新する時期も必ずありますし、そのときの予算等も考え、皆様方からいただいた意見をしっかりと受け止めて、私どもは進めていくつもりです。これが人口減少対策の1つにもなってくるだろうし、そういうところから、また、なおさらもっとそれに必要なものもきつと出てくるわけでありまますので、そういうのもできる限り、しっかりと対応していきたいと考えております。

特に、先ほど北田委員からお話があった教員の支援ということでございますが、これは中村室長から初めに説明がありましたけれども、共同学習支援ソフト、スカイメニューを導入しているということでありまして、教員向けの操作研修も全ての学校で実施しているということでありました。恐らく年齢的にも皆さん、先生方も私よりみんな下になっていきますので、機械を動かすのもそんなに難しくなくなっていると思ひます。こういうものを使って、少しでも教員の皆様方に負担が少なくなることも大事です。現在では、このソフトを入れている団体は多いと思ひますが、山武市では、いち早く導入し取り組んでおりましたので、その辺はしっかりとPRさせていただきます。

それで、今日は、先ほども申しましたけれども、学校支援センターということで、今後はこれらの取組が大事になってくると感じました。また、お話し

を聞かせていただいて、進めさせていただきたいと思います。

今回、コロナで、今日卒業式があったという話をしましたけども、子どもたちにとっては、ここ2年というのが非常に大事な期間であって、その中が、コロナ禍での学校生活等、そういうのに当たってしまったということで、ある意味、気の毒とも思っています。しかし、こういうことは、無い方がいいのですが、これから先もまだあり得るのではないかと思います。この経験が子どもたちに役立つこともあろうということと思い、プラス思考で、受け止めていくしか今はないかと思っています。

市とすると、卒業の記念とか、いろいろ教育委員会と相談しながら何かしてあげたいとか、そういう話をして、子どもたちのそういう思い出の場づくりをしっかりとサポートしてきたつもりでございますけども、いずれにしましても、山武市の子どもは宝でありますので、そういう目線を持って、今後とも皆さんとともに、教育現場、教育環境を整えてまいりたいと思いますので、いろいろアドバイスをいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

(2) その他

市長

続きまして、その他ということに入らせていただきます。
その他、何かありませんか。清水委員。

清水委員

それでは、私はこの前も1回、市長とのお話合いの中でお話したことがあるかと思いますが、コロナの関係も含めて、お年寄りの方々がうちでひき籠もって、ほかの人と接する機会がないとか、そういうことで、認知症になる方が非常に増えているのではないかと指摘されていますけど、お年寄りの方、65歳以上の方々は人との交わりがないと、認知症になる確率が非常に高いと言われております。

そういうことで、お年寄りは認知症になりますと、大変な医療費もかかりますし、そういう部分で、大変な負担がかかってくるわけでありましてけれども、それを防止するために、いい方法がないかということで、幸いにして、教育委員会には社会教育施設、あるいは文化施設、そういった認知症を防ぐような施設はたくさんあります。ですから、ぜひともこういうものを活用していただいて、認知症とかそういうものを防ぐような施策に役立てていただければと思っています。

それから、もう一つ、これは私が昔、県にいた頃、担当したことがあることですが、上大川副市長も担当したかもしれないけど、昔、房総の魅

力100選というものをつくったことがあります。それは、千葉県の誇りみたいなものを持ってもらおうということで、千葉県内を探しまして、ほかの人に誇れるような魅力のあるものを100選んで、みんなに知ってもらう。写真とかいろいろな説明書きで説明して、説明員もつけて、何かあれば案内する、そういうものをやったことがあります。そこで、教育委員会でも、郷土愛の育成ということが重点施策として上げてあります。子どもたちに対して郷土愛を育成するということは、山武市を誇りに思う心をもっと育成しなければならないと。そのためには、誇りに思うようなものがないと、そういう心が育たないだろうということで、誇りに思うようなものをいかにして見つけて、いかにして選定していくかということが大事なのではないかと思います。

それは、教育委員会は文化財もありますし、そういう意味では、誇りに思うものがたくさんあるのです。だけれども、それは単にものだけではなくて、いろいろな施策であるとか、そういった部分も含めて、ほかの市に比べて優れているもの、誇りに思うもの、こういったものを知ってもらいたいのではないかと。それは産業振興部にもあるだろうし、建設環境部にもあるだろうし、そういうものを取り上げて、まとめた形で山武市の魅力100選みたいなもの、100選は少し多過ぎますけれども、50選みたいな感じで選んで、それは、選ぶ人はできるだけ市民の方に参加していただいて、あまり経費をかけないでうまくやって、それで最終的な選定は、ある程度、専門家に選んでもらうような、そういう部分があっているのではないかと。

そうしますと、それを使って、教育委員会としては小中学生に対して郷土愛の育成みたいな部分というのは図れますし、市に住んでおられる方も、そういう誇りができれば、魅力のある人になって、場合によっては人口も増えるような、そういう施策にもなるのではないかと思うのです。ですから、そういう意味で、そういうものを各部局を挙げて自分たちの施策、あるいは場所、いろいろな生産物でもいいのですけれども、イチヨウなどもあるでしょうけれども、そういうものを出してもらって、山武市の誇れるもの、山武市の魅力100選みたいなものを、これは仮称でありますけれども、やっついんじゃないかと思っております。

私も教育委員会の委員をやっておりますけれども、そういうものやっついただければぜひとも協力したいと思っております。

以上です。

市長

ありがとうございました。今、清水委員から、2点いただきました。1点目の高齢者の健康増進を図る取組ということでございます。今、社会教育施設、これは有効に高齢者の方も使っていただきたい、また、そういうことについては、教育委員会部局と連携を図りながら、高齢者等の健康増進の取組

というのを進めていきたいと思います。

私も市長となりまして4年たつわけですが、まず、防災に力を入れて、それから環境に力を入れてということでおしまして、昨年から、次はどうかと思っていて、やはり健康だと思っております。コロナ禍もありましたけども、自分の中だとキーワードとしては、災害、環境、健康というので、そういうものを自分のキーワードとして、市政を進めていきたいと思っております。それで、今、保健福祉部のほうでも、転倒防止関連の事業も進めております。これは筑波大学の先生と協力しながら、やはり転んでしまうと、そこから復帰できなくなってしまう、そういうことをなるべく抑えようということで、高齢者向けにそういう事業を今、進めております。

市で『広報さんむ』の配布も、今、シルバー人材センターにお願いをして、全戸配布ということをしていただきました。これは市の広報としては、市民の皆さんに行政の連絡を送ることが大事であるという考えと、それと、シルバーにしたのは、高齢者の就労の確保でもあるし、健康面もあるしということで、本来は長い時間じゃなくても、そこへ参加して健康を確保するために参加して、10軒ぐらい歩いてもらったりとか、そういうことでもいいのではないかと、そういう取組もさせていただいたりしております。

とにかく高齢者が元気でいただくのが一番だと。あと、認知症になったりすると徘徊とかもあるという話も聞きました。認知症の方の対応、そういうこともシールを作ってみたりとか、何かそういうことも、いろいろ今やっているところがございます。だけど、ならないために、予防的なものやっていくのが大事であると思っておりますので、今後とも、その辺は担当部と相談しながら進めていきたいと私は思っております。

それと、あと市の魅力発信についてです。これは本当に皆さんにも謝らなければならぬのですが、魅力度ランキングがずっと最下位のほうにいたということがあって、地域の子どもたちにとっては、これは本当に笑い事じゃ済まないのです。ですので、そのランキングがどうであれ、ああいうふうに出されてしまうと、自分のところに自信が持てなかったり、郷土愛が薄れてしまったりということがあるので、私はああいうのは、できれば出さないでいただきたいと思っております。

でも、そういうことがあったので、SNSとかを使って、できる限りのことを今やっておりますけども、委員がおっしゃっていただいたこととか、今後検討させていただきまして、進めていきたいと思っております。

いろいろどうもありがとうございます。

市長

それでは、よろしいですか。中村指導室長、お願いします。

指導室長

それでは、私から令和3年度、中学3年生実用英語検定、英検3級以上取得状況について、御説明いたします。資料はお配りしたものを御覧ください。

教育委員会では、確かな学力の向上と生きた学力の推進に努めております。中でも、グローバル社会で活躍できる人づくりを5つある方針の1つに掲げ、具体的な目標に中学校卒業時に英検3級以上の取得50%以上を目指し、取り組んでおります。

令和3年度、3年生英検3級以上取得状況の資料、1の表の太枠内にお示ししたとおり、今年度の数値は46.4%でした。掲げている目標の50%まで、あともう少しのところまで迫ってきました。また、昨年度との比較ですが、13.6ポイント上がりました。近隣の他の市町の状況については、資料はございませんが、多くの学校では10%から20%の取得率であるということを伺っております。市内の中学3年生の英検3級以上の取得率は高いということが分かります。

次に、中学校全体の状況をお示したものが2の表になります。こちらは、5級から2級までの取得した状況でございます。また、3年生だけではなく、1年生、2年生も含めております。1年生から3年生までの5級以上の取得者、市内は75.9%、約8割の中学生が英検を取得しております。次年度は中学校卒業時に英検3級以上の取得、50%を超えることができるように学校支援センターを積極的に活用し、学校との連携をさらに強化することで、目標を達成できるようにしていきます。

以上でございます。

市長

ありがとうございました。

ほかに何かございますか。川島教育総務課長。

教育総務課長

それでは、次第の4番、事務局からのその他報告、2点目でございます。

今日、配りました、蓮沼中学校と松尾中学校、学校統合準備委員会の協議結果の資料なども含めて、報告をさせていただきます。

令和4年4月に開校となる、蓮沼中学校と松尾中学校の統合中学校である、山武望洋中学校でございますが、2年間に及ぶ協議が整い、現在は、引っ越しや通学バスの準備を行っております。

1ページをご覧ください。会議の状況の中の下段のほうにございますが、今後は開校式を3月25日に予定しております。また、開校式は4月11日に、入学式と併せ、開催する予定でございます。

3ページ以降は、主な検討項目ということで、これは折に触れ、報告のほうをさせていただいたところでございますので省略させていただきますが、3ページは、校名について、4ページは、校歌について記載させていただきました。5ページの校章でございますが、これは両校の生徒から募集をしたものでございます。そういった中で、校旗であったり、体育館の舞台幕であったり、そういったところにも、校章のデザインを用いて作成中でございます。

6ページは、制服、トレーニングウェアの、これは作業部会の様子などを掲載させていただきました。保護者などから、いろいろ試着などを含めて御意見をいただきながら、つくり上げてまいりました。

その次のページ、通学方法とあります。こちらについても、親御さんからの意見、そういったものを取り入れながら行ってまいりました。下段にある写真は試乗会の様子となります。蓮沼小学校の6年生を対象とした試乗会を3月1日に行いました。蓮沼のスポーツプラザの向かいにある駐車場が出発点となります。そして、松尾中学校ですが、こちらに向けて松尾中学校の様子なども、小学生などが見学したところでございます。新中学2年生、3年生対象の蓮沼中学校の生徒対象の試乗会は3月15日に予定してございます。

続いて、8ページでございますが、学校運営部会、これは教職員から成る会議でございます。令和4年度の主な行事については体育祭、修学旅行、合唱コンクールなど、こういった日程で行っていくということが決まっております。下段でございます。コロナ禍でございますが、オンラインなども活用し、各学年の交流が行われたところがございます。生徒会では、両校の生徒会役員の意見交換がオンラインで活発に行われたところがございます。また、バレー部も合同練習で、幾度となく練習したというところがございます。

最後のページには校歌がございますが、説明は省略をさせていただきます。

なお、今は引っ越しの最中ございまして、引っ越し業務は、2月4日に、図書、金庫の移動を終えております。あと、3月16日には生徒の机や体育、部活動備品、ほとんどのものを1日で運ぶ予定です。3月29日には、職員室の机、椅子を運び、この3日間で引っ越しを終える予定でございます。また、3月30、31日を活用いたしまして、新望洋中学校の入り口の看板、あと生徒専門の入り口の校名表示、これを行っていく予定となっております。

新制山武望洋中学校を、また引き続き、御支援、御協力を賜りたくお願い申し上げます。報告は以上で終わります。よろしくお願いたします。

市長

ありがとうございました。

ただいま、川島教育総務課長から報告がありました。蓮沼中学校、松尾中学校の学校統合準備委員会ということで、委員の皆様方には、本当にこの統

合に関しまして御尽力いただきまして、感謝を申し上げたいと思います。いよいよ3月25日の閉校式、そして、4月11日の開校式ということになります。準備も進めているというところございまして、スムーズに開校され、中学校が1つになって、みんなで生活できる中学であることを望みたいと思います。

ほかに何かございますか。教育部長。

教育部長

事務局から御連絡させていただきます。

本会議終了後にわくわく館の現地視察を予定させていただきます。これは2月1日からようやく供用開始となりました、わくわく館をぜひ御覧いただきたいということで、副市長、教育委員の皆さんには参加していただきたいということで用意しました。よろしく願いいたします。

以上です。

市長

どうぞ、お願いします。

教育長

先ほど報告があった英検の3級以上の取得について、少し補足させていただきます。

令和2年度との比較で、32.8%から46.4%まで、今回大幅に上がったという報告をさせてもらいました。実は、この取組というのは、もう5年以上になります。今まではずっと30%台なんです。受験対策もやるし、いろいろなことをやってきましたが、なかなか上がってこなかった。ですが、やっとここに来て、46.4%まで上がって、もう一息で目標達成できるところに来たのですけど、何で今まで何年も数字が上がってこなかったのだろうということを考えてみたんですけど、目標は確かに定めて、そこに向かってやってくれという話をしてきたのですが、これが実際の現場の中で、先生方もこの目標について、英語の先生がしっかり取り組もうという意識改革、最初は言われたからとやっても、なかなかそこまでいかなかったのと、あと、子どもたちのほうも毎年、毎年、英検を受けてくださいとお願いをしている中で、そういう対策授業などもやっていたので、子どもたちの意識も変わってきている。英検に取り組む意識が、先生方とか、子どもたち両方の意識がやっとな変化した中で、みんながやる気になったので、どんどんと上がってきているということがあるのです。

だから、なかなか効果が上がらないので、これはやってもしょうがないのではないと言われるのが怖かったんですけど、やっとここに来て、そうやってきて、やはり教育に関することというのは時間がかかると思っています。ですので、いろいろな取組をしていますが、その成果が見えるまで、きちん

と見守っていただけたらと思っています。様々なことをやっていますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

市長

ありがとうございます。

ただいま教育長からも補足説明もありました。あと、小川教育部長からも、わくわく館の視察についての連絡がございました。

以上で終わりとなりますけども、何かありましたら、委員の皆様、御質問などございましたら、よろしいでしょうか。

ないようでございますので、以上で議長の任を解かせていただきます。御協力ありがとうございました。

教育部長

ありがとうございました。

以上で、令和3年度第1回山武市総合教育会議を終了いたします。お忙しいところ、ありがとうございました。お疲れ様でございました。

市長、副市長、教育長と委員の皆様におかれましては、わくわく館の視察がございましたので、視察の車の準備をいたしますので、いましばらく、この場にてお待ちいただき、お声掛けさせていただきますので、ここでお待ちいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

以上でございます。

◎閉 会 午後3時20分